

- 1 学校課題と学校全体のデータから、重点課題を決めて働きかけを工夫する。
 - ・学校の傾向として、低い要素に着目する。
(例) 有能感が低かったので、教育活動全般で子どもをほめるように心掛ける。また、学び合いの中で、教師が子どもの意見を価値付けたり、よさを広めたりして、子どもが有能感をもてるようにする。
- 2 安心して学べる環境づくりに学校体制で取り組む。
 - ・リーフレット P.3 の4つのポイントを参考に日々の教育活動の中で意識して取り組む。
- 3 学級の傾向に着目して、重点課題を決める。
 - ・リーフレット P.4,5 を参考に具体的に働きかける。
(例) 自発学習への意欲が低めなので、目標や学習計画をたてさせる。
- 4 個人に視点をあてる。
 - ・アンケートの結果で、気になる生徒に視点をあて、教職員が共通理解のもとに働きかける。
(例1) 学校・学級の重点要素から視点とする生徒を決める。
 - ・有能感を伸ばしたい生徒・・・Aさん、Bさん
 - ・独立達成を伸ばしたい生徒・・・Cさん、Dさん
(例2) 教師の観察とのずれが大きい児童生徒に視点をあてる。
(例3) 要素間の差が大きい児童生徒に視点をあてる。
- 5 教科の特性に応じて重点課題を決める。
 - ・中学校においては教科部会で共通理解を図る。
(例) 数学科では、達成度に応じた課題を準備して挑戦行動を伸ばす。
保健体育科では、適切な目標を設定できるように指導し、目標達成の体験をさせることにより、充実感を高める。
- 6 単元、1単位時間の振り返りの工夫をする。
 - ・振り返りカードの項目の中に、学ぶ意欲に関する項目を設ける。
(例) グループでの話し合いで、参考になったことは何ですか。
1番やる気が出た場面はどこですか。
- 7 メモ程度の記録を残す。
 - ・月日、単元名、働きかけ、子どもの様子・変容などを記録しておく。